

ほうろうき
放浪記

はやしふみこ
林芙美子

海が見えた。

海が見える。

五年ぶ振りに見る、尾道おのみちの海はなつかしい。

汽車が尾道おのみちの海へさしかかると、

煤すすけた小さい町の屋根が

提灯ちようちんのように広がって来る。

赤い千光寺せんこうじの塔とうが見える、

山は爽さわやかな若葉わかばだ。

緑色の海向うみむこうにドツクの赤い船が、

帆柱ほぼしらを空に突つきささしている。

私わたしは涙なみだがあふれていた。